

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和2年(2020年)

10-11月号

(通巻 190号)

2020年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ハッカ

ハッカは、外来ハーブのミントとは違います。日本在来の野草で、田んぼのまわりなどに生育します。

P1 ☀️ いきもの写真館
ハッカ

P2 ☀️ センサーカメラの記録
2019年10月～11月
/ 3

P4 ☀️ いちかわの植物 30年
ヤブレガサ
アワコガネギク

P5 ☀️ 街かど自然探訪
若宮・八幡神社の木々

☀️ くすのきのあるバス通りから
糞をしたのは誰？

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
本物はどれ？カレハガ成虫

P7 ☀️ わたしの観察ノート
7～8月の記録

P8 ☀️ 自然博物館 利用案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



センサーカメラの記録

(2019年10月～11月)

自然博物館では、長田谷津（大町公園自然観察園）の斜面林内にセンサーカメラ（自動撮影装置）を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



カケス

(2019年10月28日 時刻不明)

カケスは、春は2019年4月4日が最後の記録で、秋は10月2日が最初の記録。気が強く、カケス同士で水場を取り合い、他種に対しても譲ろうとはしない。カケスが使っている水場に隙を見て入り込んだヒヨドリは、見つかると、すぐに追い出されてしまった。



シロハラ

(2019年11月15日 12時50分)

ツグミ類で水場に現れたのは、ツグミ、アカハラ、シロハラ、トラツグミの4種類で、その中ではシロハラが特に数多く姿を見せた。カケスと違って水場の占有意識は低く、ツグミ、シロハラ、ヒヨドリが同時に水場に入る場面も記録されていた。



タヌキ

(2019年10月25日 0時50分)

写真の2頭のうち、うしろのタヌキは右目が赤外線反射しない異常があり、個体識別できる。写真のように他の個体と行動を共にする場面も多く、長田谷津で暮らす家族の一員と思われる。この個体はその後も継続的に記録され、原稿執筆時点での最新の記録は2020年8月31日となっている。(夜間赤外線撮影)

※前号のタヌキは2019年生まれの子ダヌキではなかったです。8月の記録を再確認したところ、子ダヌキはまだもっと小さかったです。昨年以前に生まれた個体でした。すみません。



ハクビシン

(2019年11月20日 19時11分)

ハクビシンが記録される回数は少ないが、2019年3月から2020年4月の期間では、2019年7月～10月と2020年1月～2月を除いた月で記録されていた。(夜間赤外線撮影)

10月から11月の撮影記録(種名、西暦の下2桁と月日)

哺乳類

タヌキ:191007,191011,191014,191021,191022,191024,191025,191026,191102,191103,191104,
191107,191108,191109,191110,191113,191116,191118,191119,191125,191127,191128,191129

ハクビシン:191120

鳥類

アカハラ:191114

カケス:191002,191003,191014,191015,191017,191018,191026,191027,191028,191030,191110

キビタキ:191013

シロハラ:191108,191114,191115,191121,191124

ツグミ:191114

トラツグミ:191017

ハシブトガラス:191015

ヒヨドリ:191015,191016,191017,191027,191028,191030,191108,191109,191110,191114,191115

いちかわの植物 30年

自然博物館の30年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

ヤブレガサ

ヤブレガサの名前は、葉が芽吹いたころの様子「破れた傘」を閉じた状態に似ていることに由来しています。葉が開いてしまうと何てことない野草で、花も決して目立つわけではありません。出会ったときにとりあえず撮影しておいたのですが、結果的にはこの時が最初で最後でした。

ヤブレガサが生えていた斜面にはモミジが植えられ、紅葉がベストの状態を楽しめるよう念入りに草刈りされるようになったからです。春からの繰り返しの草刈りは、こういう春以降の野草には厳しいですね。



ヤブレガサ(1987年6月26日)
大町公園。ほかにもカノツメソウとかが生えていた斜面でした。

アワコガネギク

堀之内貝塚は、国の史跡として保存されていることから土地の改変がなく、昔ながらの植物も結果的に残されています。カントウタンポポやシロバナタンポポ、キツネノカミソリ、ホタルカズラはよく知られていますし、在来種のイヌノフグリも自生しています。

アワコガネギクは、色鮮やかな黄色の野菊です。撮影当時、生えている場所は知る限りは堀之内貝塚だけでした。しばらくは安定していましたが、その場所はいつの間にか踏み跡になり、消えてしまいました。



アワコガネギク(1986年11月7日)
堀之内貝塚。京都の地名(東山 菊溪)にちなんでキクタニギクともいう



街かど自然探訪

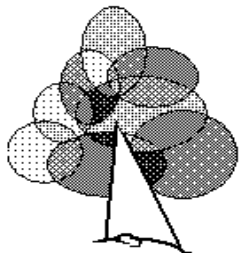
おじゃまします!

わかみや 若宮・八幡神社の木々

若宮は緑の多い住宅地です。八幡神社は、その中でも緑がこんもりとしていました。境内は児童公園にもなっていて、きれいに掃き掃除がされ、ちょうどヒガンバナが咲いていました。スダジイやケヤキの大木があり、春にはサクラもきれいそうです。イチヨウは、まだ緑色の葉の中に、実(正確には種子、その中に銀杏)が黄色く色づいていました。今年は特別豊作なのか、一つ一つも大きく、びっしり付いていてびっくりしました。



△ぶどうの房のように実っているイチヨウの種子
本来はサクランボのようにぶら下がるのが、柄が見えないほどびっしりと実っている。



くすのきのあるバス通りから No.132

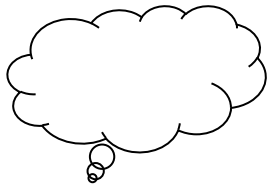
糞をしたのは誰？

9月に、台風による北北西の風で気温が下がり、しばらく雨が続きました。この気温と雨が好きなのか、ネムノキが再び咲きました。下旬にヒガンバナが咲き、10月に入り、晴れた日セミが鳴き、キンモクセイが咲き始めました。

玄関先に、雨のせいか崩れかけた何かの糞がありました。夏前に塀のブロックの上にも似たようなものが二か所あり、今度は3cmぐらいの楕円形の糞があったのです。防犯カメラで映る範囲内なので、再生しました。なんとキジバトが立ち止まった後、残されていました。崩れかけたものは、上から落ちるのが映っていました。夏前の糞を

見て、以前庭を横切ったことがあるハクビシンでは…とっていたので、がっかりしました。フェンスに止まり、ブロックの上に落ちた糞と、電線の上から落ちて広がり、雨で崩れた糞でした。暗い色と細い紐状の部分と白が少し…道路にもありました。ご近所の木にある巣に、キジバトがいることがあります。真間川や大柏川の近くの電線に止まるウの糞は、昼間の休憩場所なので、大量で真っ白で臭く、富貴島小の前の松では、数羽のサギが埒(ねぐら)にするだけなので多くなく、雨で流されるようです。

(M.M.)



展示室

No.34

飼育生物の話題



蛾にくわしい人から、夏にカレハガの幼虫をいただきました。でっかい毛虫で、相当にインパクトのある飼育展示になりました。飼育ケースのなかで繭を作って蛹になったので、一度、展示から下げました。その後、別室で羽化して成虫になったので、あらためて展示することにしましたが、その時に、カレハガの成虫の最大の魅力が表現できるように、ひと工夫しました。

カレハガ（成虫）の特徴は、その名前からもわかるように「枯れ葉そっくり」ということです。博物館スタッフは全員はじめて見たのですが、あまりのそっくりぶりに感心しきりでした。なので、逆にカレハガ成虫のダミー（にせもの）を作っていっしょに飼育ケースに入れることにしました。手先が器用なスタッフが外で拾ってきた落ち葉でいくつか作りました。結構たのしい展示になりましたが、パパが自信を持ってダミーを「あれが本物」と子どもに教えている場面では、どう声をかけようか困ってしまいました。



左から、にせもの、にせもの、本物

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・よく雨が降り、薄暗い日が続きました。腐生植物（菌従属栄養植物）のタシロランには好適なようで、ぞくぞくと生えてきて花を咲かせていました(7/3)。

金子謙一(自然博物館)

- ・観察園のクヌギの樹液は大盛況でした。カブトムシが15匹以上樹液を吸っており、喧嘩があちこちで行われていました(7/24)。カナブンやクロカナブンは、カブトムシの隙間を見つけて樹液を吸っていました。
- ・博物館学の実習で来ていた大学生達がツノトンボを採集しました(8/7)。ツノトンボのなかまが属する脈翅目(アミメカゲロウ目)を専攻している学生にみてもらったところ、オオツノトンボと同定してくれました。専門分野の人に見てもらい、新たな知見を得ることができました。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・白い小さな花のミズタマソウが、アシにまぎれて咲いていました(8/19)。知らないで見過ごしてしまう野草なので、大きな名札をつけておきました。

金子謙一

◆真間山南側斜面林より

- ・雨上がりの朝、ミンミンゼミがようやく元気な鳴き声をひびかせてくれました(7/23)。でもすぐに、また雨が降り始め、鳴き声はやんでしまいました。雨続きの7月です。

- ・ツクツクホウシが鳴き始めました(8/12)。梅雨明けが遅れたためか、いつもより遅いようです。高温注意情報や熱中症アラートが連日出される暑い夏です。

以上 M.T.さん

◆中山より

- ・小学校に自然観察の講師で出かけました(7/7)。今年はプールの授業がなく、プールは水がやや濁っていて「ため池」のようでした。プールサイドにはシオカラトンボやショウジョウトンボがとまり、時々縄張り争いをしていました。ギンヤンマの雄は、広い水面をゆっくり旋回していました。

◆江戸川より

- ・雨と低温が続く中、この日は雨があがり気温も高めでした(7/16)。江戸川のヒヌマイトトンボ生息地を訪れると、出会うことができました。ここは、貴重な河川敷のヨシ原でもあります。イヌゴマ、シロネ、ガガイモが咲いていました。ゴキヅルとニガクサも咲き始めそうでした。

以上 金子謙一(自然博物館)

市川市域では長引く大雨はありませんでしたが、7月は雨の日が続きました。8月1日によろやく梅雨が明けた途端、連日の酷暑でした。13日は船橋アメダスで37.1℃でした。ただ昆虫たちは元気で、その点は夏休みらしくなりました。



自然博物館 利用案内



開館時間

午前9時30分～午後4時30分（入館は4時まで）

休館日

- ・毎週月曜日（ただし月曜日が休日の場合は翌日）
- ・年末年始
- ・展示室整備のための休館(令和3年2月頃を予定)

交通案内

○北総線「大町駅」より

自然観察園入口まで 徒歩5分

観察園を抜けて 徒歩25分

○JR武蔵野線「市川大野」駅より

コミュニティバス往復ルート「松飛台駅」行き

「動植物園」下車(1日数本運行)

○JR総武線「本八幡」駅北口、

JR武蔵野線「市川大野」駅より

京成バス「動植物園」行き

終点下車(土休日のみ運行)

○お車の場合は、

動植物園入口の駐車場

(普通車500円)を

ご利用ください。



第33巻 第4号（通巻第190号）

令和2年10月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477